

令和4年度 第1回 食育推進会議 議事録

開催日時	令和4年8月25日(木)午後3時～
開催場所	仙台市役所本庁舎2階 会議室
名簿	委員 小山田陽奈、片倉成子、加藤房子、神田あづさ、木村由希、佐藤将人、白川愛子、菅澤和広、平田政嗣、古林史子、大和一美、加藤邦治、小林弘美、村上薫、福田洋之 【欠席委員：門脇篤子、柴崎崇、二階堂善一】 <p style="text-align: right;">(敬称略)</p>
	事務局 川口健康福祉局次長(保健衛生担当)、小椋保健衛生部長、千葉保健衛生部参事兼健康政策課長、飯間主幹兼健康増進係長(司会進行)

発言者等	発言内容
進行	<p><1. 開会></p> <p>皆様おそろいになりましたので、ただいまより令和4年度第1回仙台市食育推進会議を開催いたします。本日はお忙しい中ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。本日の会議は、本年6月9日に、委員任期が改まりましてから、初めての会議となります。</p> <p>今期の委員としてご就任いただきました皆様を、委員名簿順にご紹介申し上げます。</p> <p>次第の裏面をご覧いただきたいと思います。</p>
進行	<p><2. 委員紹介></p> <p>公益財団法人みやぎ環境とくらしネットワーク事務局、小山田陽奈委員でございます。</p>
小山田委員	よろしく申し上げます。
進行	続きまして、公益社団法人宮城県栄養士会会長、片倉成子委員でございます。
片倉委員	片倉でございます。よろしく申し上げます。
進行	宮城県生活協同組合連合会常務理事加藤房子委員でございます。
加藤(房)委員	加藤でございます。よろしく申し上げます。
進行	仙台市保育所連合会役員、門脇篤子委員でございますが、本日は欠席でございます。続きまして、仙台白百合女子大学人間学部健康栄養学科教授、神田あづさ委員でございます。
神田委員	神田でございます。どうぞよろしくお願いたします。
進行	仙台市私立幼稚園連合会役員、木村由希委員でございます。
木村委員	木村でございます。よろしく申し上げます。

進行	市民公募、佐藤将人委員でございます。
佐藤委員	よろしくお願ひします。
進行	仙台農業協同組合営農部営農企画課課長、柴崎崇委員でございますが、本日は欠席でございます。続きまして、宮城大学食産業学群フードマネジメント学類教授白川愛子委員でございます。
白川委員	白川でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。
進行	仙台市小学校長会、東二番丁小学校校長、菅澤和広委員でございます。
菅澤委員	菅澤です。どうぞよろしくお願ひします。
進行	仙台市PTA協議会副会長、二階堂善一委員でございますが、本日は欠席でございます。続きまして、一般社団法人仙台歯科医師会常務理事、平田正嗣委員でございます。
平田委員	平田です。どうぞよろしくお願ひします。
進行	市民公募、古林史子委員でございます。
古林委員	古林史子と申します。どうぞよろしくお願ひします。
進行	一般社団法人仙台市医師会理事、大和一美委員でございます。
大和委員	大和でございます。お願ひいたします。
進行	次に、本市職員の4名が委員に任命されております。加藤健康福祉局長でございます。
加藤(邦)委員	加藤でございます。よろしくお願ひします。
進行	小林子供未来局長でございます。
小林委員	小林です。よろしくお願ひします
進行	村上経済局長でございます。
村上委員	村上です。どうぞよろしくお願ひいたします。

進行	福田教育長でございます。
福田委員	福田です。どうぞよろしく願いいたします。
進行	なお、その他職員出席者名簿に記載のとおり、本市の関係職員が出席しております。皆様どうぞよろしく願いいたします。
進行	<p><会議成立報告> 次に、本日の会議の成立についてお知らせいたします。 現在、15名の委員の皆様にご出席いただいておりますので、仙台市食育推進会議条例第7条の規定により、本会議は成立しております。</p>
進行	<p><資料確認> 続きまして、本日の資料の確認をお願いいたします。 お手元の会議資料一覧をご覧ください。 まず、【資料1】から【資料5】、そして【参考資料】までは、先に郵送させていただいております資料となります。 次に当日配布資料の確認でございます。「令和4年度歯と口の健康週間チラシ」が1枚ございます。続いて、「仙台市消費生活講座チラシ」が1枚ございます。「離乳食バランスを大切に」というリーフレットが各1部ずつでございます。「8、9月の予定献立表」が1枚ございます。続きましてとれたて仙台カードが1枚ございます。「肉を原因とする食中毒が多発しています」と表記されているしおりが1枚ございます。「仙台市一般廃棄物処理基本計画概要版」が1冊ございます。最後になりますが、「仙台食品ロス削減ガイドブック」が1冊ございます。 以上、資料の不足はございませんでしょうか。また会議での使用はございませんが、お配りしております文書について、ご確認をお願いいたします。「仙台市食育推進ロゴマーク」の電子データの送付についての文書でございます。本日の議事にもございますが、令和2年度に作成した仙台市食育推進のロゴマークについて、ぜひご活用いただきたく、データをご用意いたしました。のちほどご確認ください。 もう1点ご紹介でございます。 本日お配りしております麦茶のペットボトルになりますが、リサイクルされたペットボトルでできております。仙台市では、家庭から排出された使用済みペットボトルを新たなペットボトルへ繰り返しリサイクルする取り組みを行っておりますので、ぜひ表記を見ていただきながら飲んでいただきたいと思います。</p>
進行	<p><3. 議事> それでは、議事に入りたいと存じます。 まず、議事の(1)ですが、本日は委員任期が改まりましてから初めての会議となりますので、会長を選任いただきたくと存じます。 仙台市食育推進会議条例第5条の規定により、会長は委員の互選により定めることとなっております。皆様からご発言ございますでしょうか。 平田委員よろしく願いします。</p>
平田委員	仙台歯科医師会の平田です。本会議におきまして、これまで会長職務代行者として務めていただいていること、また栄養学食育分野の専門として深い造詣と学

	<p>識を有していることから、宮城大学教授の白川愛子先生をご推薦させていただきたいと思えます。いかがでしょうか。（拍手あり）</p>
進行	<p>ありがとうございます。 それでは恐れ入りますが、白川委員には会長席にお移りいただきたいと存じます。それでは、ここで白川会長からご挨拶を頂戴したいと存じます。 よろしく願いいたします。</p>
白川会長	<p>ただいま会長にご推薦いただきました、宮城大学の白川でございます。どうぞよろしく願いいたします。就任にあたりまして、一言ごあいさつ申し上げます。 「食べる力みんなでアップ！」を目標に推進して参りました、仙台市の食育推進計画第二期後期計画は、のちほど事務局からご説明がありますが、期間を1年延長して令和5年度までとなっております。これに基づいて、委員の皆様も様々な食育の取り組みを進められていることと存じます。昨年からの第四次食育推進基本計画が始まり、これにつきましても、のちほど私の方からご説明させていただきますが、コロナ禍が継続している中、新たな日常やリモートでの活動を余儀なくされた状況で、デジタル化に対応した食育が推進されております。昔は子供に対する食の教育の意味合いが強かった食育も、現在では、食育の概念が非常に幅広くなっております。第4次食育推進基本計画では、持続可能な開発目標SDGsの視点も加えられ、さらに世界や地球規模の広がりを見せております。 そのような中で、今年に入り世界の平和を揺るがすような状況や、最近では地球温暖化の影響か、頻繁に豪雨による被害が生じており、食料の安定供給への不安や食料品の値上がりなど、食生活への影響も大きくなってきております。 食育がまさに大きな変化に直面している今、本会議は、委員の皆様にご改めて、あらゆる角度から食育について考えていただく機会になるかと思えます。本日そして今後とも、様々なご意見を頂戴し、情報共有をしていただきたく存じます。 本日はどうぞよろしく願いいたします。</p>
進行	<p>ありがとうございました。 それでは、これからの議事進行につきましては、会長をお願いしたいと存じます。会長よろしく願いいたします。</p>
白川会長	<p>それでは、委員の皆様どうぞよろしく願いいたします。 では早速ですが、「会長職務代理者の指名」でございます。仙台市食育推進会議条例第5条第3項の規定により、会長である私が、職務代理者を指名することになっております。私としましては、神田あづさ委員をお願いしたいと思えますが、神田委員、そして皆様よろしいでしょうか。（拍手あり） それでは神田委員、どうぞよろしく願いいたします。</p>
神田委員	<p>よろしく願いいたします。</p>
白川会長	<p>続いて、議事録にご署名いただく委員を、私から指名させていただきます。 今回の議事録署名につきましては、仙台市私立幼稚園連合会の木村委員をお願いしたいと思えます。どうぞよろしく願いいたします。 それでは、次の議事に移ります。 (2)の、「令和4年度食育推進事業計画について」でございます。 資料1は今年度の食育推進事業について、委員の皆様からご回答いただいた事業計画を事務局で取りまとめたものでございます。</p>

	<p>今回の会議では、時間の都合上、各団体様からの説明は省略し、資料1をもってご報告とさせていただきますが、コロナ禍での取り組みについても、3年目となり、各団体の皆様におかれましては、様々な工夫や感染対策をしながら、取り組みを再開していることであろうかと思います。恐縮ではございますが、こちらからご指名させていただきますので、取り組みの事例などについてご紹介いただきたいと思ひます。</p> <p>まず、資料1の2ページに記載してあります、仙台歯科医師会の取り組みとして、歯と口の健康週間市民のつどいWEB開催について、ご紹介いただけますでしょうか。平田委員、お願いいたします。</p>
平田委員	<p>仙台歯科医師会の平田です。よろしくお願ひします。お配りしてあるカラーの資料、「市民のつどいWEB開催」という資料をご覧いただきながらお話を聞いていただければと思ひます。</p> <p>今まで市民のつどいというのは、国分町にあります歯科医師会館でリアルの状態、多いと1000人ぐらひの市民の方に来ていただひていました。市民のつどい実行委員会ということで、ここにいらっしやる宮城県栄養士会さんが入っていますが、皆様凄くご協力的で、お名前だけではなく実際に動いていただひていました。とはいえ、コロナ禍におきましてなかなか実開催ができないということで、どうしようかと考えていたのですが、何もしないというわけにいかないだろうということで、ウェブ開催はどうだろうかということで、仙台歯科医師会のホームページの中にウェブサイトを立て上げ、このような形で行うこととなりました。</p> <p>関係団体の皆様から、歯と口の健康、さらには食育に関する動画をたくさん作っていただひて、開催したところでございます。健康長寿における生活と口の働きなど、そのような食に関するところが、たくさんはいつております。例えば今回栄養士会さんから発信していただひたところでは、子供たちの栄養という観点から、これからこういう風に取り組んでいただひたいということ動画を掲載していただひております。かなりのアクセス数がございました。</p> <p>実際、かなり参考になったというご意見もいただひています。このサイトですが、10月いっぱい開いております。デンタルグッズを当てようというクイズは終了しましたが、内容自体はまだまだご覧になれますので、この二次元バーコードからアクセスしていただき、ご覧いただひればと思ひております。</p> <p>我々歯科医師会としましては、やはり食育といひますと、何を食べるかということだけではなく、いかに食べるかという部分というのも非常に大事になっております。我々がまずできることというのはやはりベースとなるかもしれません。いかに食べるかという部分、いかに食事をとっていけるかというのを、どの様ないいことがあつたとしても、口で食事できなければどうにもならないというところですので、その部分で食育に関わっていただひればと思ひます。引き続きよろしくお願ひいたします。</p> <p>私からはこのように紹介させていただきます。以上でございます。</p>
白川会長	<p>ありがとうございました。歯と口の健康週間は、6月4日から10日ということですが、市民のつどいのウェブについては10月30日まで公開とのことですので、長期にわたり、感染の心配をせず多くの方にご参加いただひけるということで大変良い取り組みではないかと思ひます。ありがとうございました。</p> <p>次に、6ページに掲載してあります、仙台市小学校教育研究会学校給食部会の取り組みについて、活動を休止せざるを得なかつた2年間の各学校の事例等を共有いただきますとともに、アーカイブ化するというのですが、具体的にはどういつた取り組みになりますでしょうか。菅澤委員、お願ひします。</p>

菅澤委員	<p>改めまして菅澤でございます。</p> <p>仙台市小学校長会という肩書きになっておりますが、実は仙台市市立学校の教員で組織しております。校長会も一部でございます。仙台市教育研究会というのがございまして、そちらの中の学校給食部会の部会長を務めております。</p> <p>こちらの方に上げさせていただきました、仙台市小学校教育研究会学校給食部会ですが、コロナ禍において2年間活動休止せざるをえない状況でございました。ですが、全国一斉休校だった2ヶ月を除きまして、仙台市の学校給食も、3日間練習の給食を踏まえまして、実はそのあとは、1日も止まらずに給食を展開しております。</p> <p>給食は毎日ございますので、ある意味では、国語算数と匹敵するくらいの頻度で展開して参りました。学校給食と言いましてもセンター方式もあれば、自校方式もございます。学校の施設も様々でございますし、クラスにいる人数も様々ですので、すべて条件は異なります。その中で、各学校が努力して、その給食を続けてきた。その中で食育を行ってきたといったところが、いかにも当たり前のようになっているのですが、その価値にはすさまじいものがあるというふうに考えております。この2年間、学校で行いましたそれぞれの工夫した取り組みを、ぜひデータとして残しましょうというのを今年度の取り組みにすることにいたしました。そちらをデジタルデータで、今学校もGIGAスクール構想ですべて繋がっておりますので、そちらを活用して、自分の学校でもこれはできるかもしれないといった広がりがあるように、今年度はこの2年間の取り組みにつきまして、それぞれデータを上げていただきまして、その価値あるものを共有する、それをアーカイブ化と称しているところでございます。</p> <p>今その様式が整って参りまして、各学校にデータの提供をお願いしているところでございます。</p> <p>以上です。</p>
白川会長	<p>ありがとうございました。コロナ禍で活動ができない間も、各学校の取り組みを共有して、デジタルで記録に残していくことは、今後の食育の実践について大変参考になりますので、有意義なことと思います。ぜひ、今後に生かしていただきたいと思います。</p> <p>次に、様々な取り組みをされている宮城県生活協同組合連合会様ですが、13ページに掲載してあります、生産者との交流などの取り組みで、工夫されていることなど、ご紹介くださいますでしょうか。加藤委員、お願いいたします。</p>
加藤(房)委員	<p>宮城県生協連の加藤でございます。</p> <p>それでは13ページに基づきまして、ご紹介させていただきたいと思います。まず宮城県生協連とは、宮城県内にある様々な地域購買生協、具体的に言いますとみやぎ生協、生協あいコープみやぎ、あとは大学でございます9つの大学生協、医療・介護などを行っている福祉生協、宮城労災生協、全国的にも珍しいJA、農協がこの宮城生協連の会員として構成しているのが私どもの連合会となっております。</p> <p>その大きな会員の地域購買生協ということでみやぎ生協と生協あいコープみやぎの食育推進に関わる計画についてご紹介させていただきたいと思います。</p> <p>まず13ページの一番上の、産地見学会というところですが、みやぎ生協も生協あいコープみやぎも同様ですが、ただ商品を消費者が買うというだけではなく、生産者の顔と暮らしが見えるので、生協の組合員と生産者の暮らしを知りな</p>

	<p>がら、その生産者の暮らしぶりを理解し、暮らしを応援する立場で、いろんな生産物を購入するという取り組みを、設立時から行っております。</p> <p>ところがコロナにより、今までは組合の方が直接生産者の圃場に出向いてお話を聞いたり関わってきたのですが、このコロナで産地に行けず、生産者を呼んでお話を聞いたりすることもできなくなっています。</p> <p>それで、昨年度も少しずつ始めていましたが、野菜や牛・畜産の生産者自らオンラインで、産地の状況を紹介し現状の報告をしてもらい、それで各店舗にある集会室に集まった組合の方々と直接交流をして、繋がっている、出向かなくても交流を行い、オンラインを通じて産地交流を継続して行く、というようなコロナ禍においての工夫した取り組みになっております。</p> <p>あともう1つの生協あいコープみやぎの取り組みで「Wa! わぁ祭り」があります。今までは、「Wa! わぁ祭り」を国際センターを会場にして、生産者組合職員が一堂に会して、1000人規模でお店を出したり生産者と交流したりする企画を行っていましたが、昨年、初のオンライン企画ということで、1ヶ月間、毎日ではないですが、毎週何かしらの映画だったり、生産者の話を聞こうだったり、メンバーと生産者と職員が繋がるという企画を行い、大好評だったことから、令和4年度も、オンライン企画を主体として実施することになりました。</p> <p>生協あいコープみやぎは、より生産者、組合員、職員の繋がりが強く、あいコープみやぎのすごいところは、コロナが始まって翌月くらい、あいコープの理事が産地から、レポーター役になって、スマホを使ってオンライン配信をいち早くやっているの、実際に本当にバスに乗っているような感じでオンライン企画を組み立てて、参加者もとても楽しみながら、生産者と職員が交流できるということになっております。</p> <p>あと13ページの下の③Bの3のところの、みやぎ生協の取り組みですが、田んぼで、家族総出で田植えしたり、生き物調査をして稲刈りまでする田んぼの学校というのがあり、こちらもコロナにおいて、2年間中止せざるをえませんでした。人数制限したり、密にならないように、いろいろ気を配りながら、また再開しようということになっております。</p> <p>私からは以上です。</p>
白川会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>消費者や組合員が生産者と交流する機会を持つことで、農業や生産についての理解深め、食への関心を高めることにも繋がります。また生産地域の活性化にもなります。</p> <p>生産現場を訪問して、実際に見て体験するというのも大切なのですが、宮城生協組合連合会様ではすでにデジタル化にも対応されていて、「Wa! わぁ祭り」などをオンラインで、実際に開催されているということで非常に画期的な取り組みを進めていらっしゃると思います。ありがとうございました。</p> <p>皆様からご質問等ございますでしょうか。</p> <p>なければ、それでは次の議事に移ります。</p> <p>(3)の仙台市食育ロゴマーク活用状況についてです。仙台市食育ロゴマークについては、令和2年度の食育推進会議において承認され、活用を進めてきたところですが、資料2に沿って、仙台市における活用状況についてご紹介いただきたいと思います。</p> <p>まず、子供未来局長の小林委員お願いいたします。</p>
小林委員	<p>私から資料2-2の上書いてありますとおり、リーフレット等にこのロゴマークを活用している事例をご紹介したいと思います。</p>

	<p>本日委員の皆様のところにお配りをいたしました、この色がついたリーフレットをご覧ください。本日お配りしているのは2種類ですけれども、この離乳食教室、それから1歳6ヶ月とそれから2、3歳児に向けました、3種類のパンフレットを作成しております。これらは幼児健診の場などで、参加の皆さんに配布をしています。この表紙の一番下のところがございます、「食育せんだい」というところにロゴマークを入れております。これはそれぞれ4万枚、印刷をしているという状況です。</p> <p>それからこの表に食事を楽しんでいるイラストがありますが、この親子の父のところですけど、今年度から父がより食育に参加しているというイメージに改めたということについて補足しておきます。</p>
白川会長	ありがとうございます。次に教育長の福田委員お願いします。
福田委員	<p>私どもの方でも今ご覧いただいた資料の次のところに、学校給食の献立表を入れております。白黒で細かい資料になります。</p> <p>8月9月の予定献立表と上にタイトルもあります、横に小さくて申し訳ないのですが、「食育せんだい」のロゴ、それから「食育の日」というロゴも合わせて活用しております。</p> <p>こちら野村学校給食センターの分になりますが、今日から一応すべての学校も始まっていますし、給食の提供も始まっていますが、生徒本人もそうですし、保護者の方もよくご覧になるというところでこういった形での活用をしているというところなんです。ただすべての単独調理校で毎月ということではまだありません。</p> <p>この辺りは少しずつ拡充をしていきたいと考えているところです。以上です。</p>
白川会長	ありがとうございました。次に、健康福祉局長の加藤委員、お願いいたします。
加藤（邦）委員	<p>私からは、2つの話をさせていただきたいと思います。</p> <p>仙台市市民局の取り組みが1点、それから私ども健康福祉局の取り組みとして2つお話をしたいと思います。</p> <p>お手元の資料2の一番上の行になっていますが、市民局の消費生活センターというところがございます。場所としては、皆さんご承知の方いらっしゃると思いますが、三越の定禅寺通り館、旧141ビルの上に消費生活センターがあります。ここでは消費者教育・消費者学習であるとか消費者保護の仕事をやっております。その中で消費生活講座というのを毎月やっていて、年に1回、食品に関することをやっていただく計画でございまして、食品に関する消費生活講座をするときのチラシに「食育せんだい」のロゴマークを使っていたというところなんです。本日お配りした薄い青の資料、これは去年のチラシでございまして、右上の方に見慣れたマークが載っておるかと思いますが、ここで使っております。配布枚数は募集チラシを1000枚作っていただいて市内で配布しました。毎年1回と申し上げましたが、今年もやる予定があるということでございます。まだ外向きには言ってはないようですが、去年は健康食品の安全性ということで開催したのですが、今年は乾物クッキング、何を作るのかまでは我々まだお知らせいたしておりません。乾物クッキングで「地産地消&食品ロス削減」をタイトルとした講座を10月の末に実施する予定でございまして。市のホームページでももちろん、こちらを周知するのですが、現段階ではまだ9月の講座までしか載っておりませんので、もう少しすると10月講座解禁になると思います。これが1点目のござ</p>

	<p>います。</p> <p>それから2点目は、私ども自らやった部分でございますが、健康政策課での活用ということで、資料2では一番下になります。食育啓発ポスター作成ということで、これは昨年のこの会議の中で、ロゴマークの周知方法という中でご提案をいただき、実際にやったというものでございまして、今会長さんの後ろの壁の方に貼ってございます。真ん中に、ロゴマークを入れたポスターを作っています。こちらにつきましては市内の小中学校、高等学校、それから市民センター、あるいは食で健康サポート店に登録している飲食店などにも送付し掲示を依頼しているところです。皆様どこかで見た、そういえば貼ってあったとなるかもしれません。会議終了後には、ちょっと近くで見ただけであればありがたいと思います。以上でございます。</p>
白川会長	<p>ありがとうございました。市民に食育を普及していくために、様々な活動の場面でロゴマークを提示することで、市民に食育をより浸透しやすくすることがねらいとなっておりますので、ぜひ積極的にご活用いただきたいと思います。</p> <p>ロゴマーク活用について何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。なければ、次に移ります。</p> <p>(4)の「仙台市食育推進計画〔第2期〕後期計画評価指標速報値および最終評価について」です。まず、事務局よりご説明をお願いします。</p>
事務局	<p>資料3-1 仙台市食育推進計画〔第2期〕後期計画最終評価に係る各種調査等の結果（速報値）についてご説明いたします。</p> <p>1の概要ですが、仙台市食育推進計画〔第2期〕後期計画は計画期間が令和5年度まであり、今年度は最終評価を行うことにしております。最終評価に向けた計画における指標項目の達成状況をまとめております。最終評価に係る主な調査内容を2にまとめております。本市の健康増進計画である「いきいき市民健康プラン後期計画」についても、今年度最終評価年となるため、2つの計画における指標項目や仙台市民の健康意識等に関する状況を把握することを目的に、健康政策課で昨年度、「仙台市民の健康意識等に関する調査」および「市政モニター調査」を実施しました。報告書については、昨日郵送しておりますので、あとでご覧いただければと思います。報告書はこういう黄色い厚い冊子が1つ、市政モニター調査の水色の冊子が1つになります。</p> <p>食に関する分野については、評価指標項目以外の項目も合わせて合計33項目の結果をまとめております。</p> <p>次に3の結果（速報値）でございます。（1）評価指標の状況等ですが、各種調査結果、並びに、市役所内関係各課において把握した各評価指標の速報値について、平成28年度に把握した調査結果との比較を行いました。指標の一覧は資料3-2になります。改善状況については、速報値を中間値と比較し、0.5ポイント以上の改善または市目標達成を「↑」、0.5ポイント以上の悪化を「↓」、0.5ポイント未満の変化を「→」、集計中等を「ー」としております。</p> <p>資料3-1にお戻りください。（2）現時点での考察については、全体の傾向をまとめておりますが、委員の皆様からのご意見等いただきました上で、さらなる分析も重ねて、結果の考察もまとめていきたいと思っております。</p> <p>4今後についてです。最終評価にあたっては、各種調査結果のクロス集計など、各指標に関する分析とともに、これまでの取り組みにおける各事業の実施状況や推進体制についての評価等を行い、課題を明確化し、次期計画へ向けた準備をすすめてまいります。</p>

白川会長	<p>ご説明ありがとうございました。ただいま、評価指標の令和3年度速報値および達成状況についてご説明いただきました。ご説明がありましたとおり、今後、計画の最終評価を行っていくこととなりますが、本日の内容について、皆様からご意見をいただき、結果の考察を深めることができればと思っております。</p> <p>この結果について、各委員の皆様が食育に取り組んでおられる中で感じられる現状ですとか、結果の考察として考えられること、また、この結果以外でも、皆様の取り組みの中で課題ととらえていることなどございましたら、ご発言いただきたいと思っております。</p> <p>この件につきましては、市職員以外のすべての委員の皆様より、ご発言をお願いいたします。結果を見ての率直な感想などでも構いませんので、よろしくお願い致します。名簿順でお願いしたいと思っております。</p> <p>まず、みやぎ・環境とくらしネットワークの小山田委員からお願いいたします。</p>
小山田委員	<p>まず、みやぎ・環境とくらしネットワークという団体ですが、環境保全をメインにはしておりますが、食育とか、食とその環境というような部分の活動自体は、一般の方々に対して、これまで生産者の方々のお話を聞いておいしい料理を食べる大人向けの食育をやっていたのですけれども、コロナ禍でそういったものが難しくなって活動が低迷していたところがあります。</p> <p>この結果を見て率直に感じたのは、食育という言葉は、実際聞く機会は、もしかしたら少なくなったかなとは思いますが、皆さんがコロナ禍で、家にいたりした時に、やはり食ってすごく楽しみになったのではと思ったので、栄養バランスに気を遣っている人の割合が減少という項目を見た時に驚きがありました。</p> <p>あとは、家にいるから食事のリズムとか、気をつける余裕があるのでは思ったので、子供たちが朝ご飯を食べていないというような、4歳児とか親のコントロールの下、小学生中学生になってくると難しいなと思っておりますが、まだ幼稚園だところ食べなさい、とできるのかなと思ったので、すごくびっくりしたところでした。</p> <p>私からは以上です。</p>
白川会長	<p>ありがとうございました。次に宮城県栄養士会、片倉委員お願いいたします</p>
片倉委員	<p>私が大変気になったことは、「朝食を毎日食べる人の割合」というところですね。私も大学で講義をしている時に、東北文化学園大学で受け持っていますが、朝食を食べてくる学生が最初はいないんですね。そこで私の栄養や食事のお話をし、自分たちで献立を立て進めていくうちに、どの子も朝食を食べ始めるんですね。そうすると3回目ぐらいから行動変容が起きるんですけど、その学生が言うには、今までは午前中居眠りばかりしていたんですけども、朝食をとるようになってから眠くなくなりました、と。それと顔色が青白い学生が、血色が良くなって私にすごく褒められたり、そのような学生が本当に全部なんですね。それで最後の授業でまとめるんですけど、どの子も食事の大切さを感じた、今まで食についての学びをしたことがなかったけれども、食というのはこんなに大切なんだなということを感じたということ、大学生になってから、2年生から4年生まで教えていますが、その子たちが感じるということなので、私も講義の中で教えてるんですけど、やはり朝食を食べないと、まず学力が落ちる、そして体力も落ちる、野菜の摂取量も少なくなる。低体温を起こしちゃう、そして不定愁訴が起きる。そして知的作業能力の低下。</p> <p>きちっとね、そういったようなことをどうすればいいのかということ、やはりこのような、皆さんがいらっしゃる場だからやれると思ってるんですけど、ライフステージすべての場面に於いて、その担当の方が、例えば仙台市さんであれば</p>

	<p>母子健診の場、離乳食の場、1歳2歳3歳児の場、そして幼稚園、保育園、そして各小中学校、大学の現場、そして市民の健診の事後指導の場、そして高齢者ということで、すべてのライフステージの中で、朝食ってこんなに大切なんだよというところの、マニュアル的な簡単なパンフレットみたいなのを用意しながら、妊婦さんであったり、母子手帳の交付のときにお渡ししたり、それだけでも違うと思うので、あらゆる場面で、きめ細かにやっていかなければ、何年たってもこれは同じデータが続くのではないかと感じておりましたので、参考になればありがたいと思います。</p> <p>以上です。</p>
白川会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>次に、仙台白百合女子大学、神田委員お願いいたします。</p>
神田委員	<p>私が携わっているところで、20代女性というところでしょうか。20代女性のところ、痩せの割合が少し改善しているようで、原因をこの中から見る範囲では、朝食を毎日食べる人の割合20代女性が上回っている、朝食を食べるということがここに少しは影響しているのではないかと思います。</p> <p>また20代女性の骨ですね、カルシウムの貯金というものがこの頃までだと言われております。このときにすでに痩せていると、骨に衝撃が加わらないため脆くなる、高齢期になってさまざまな問題がある、また母乳の研究からも、痩せのお母さんの母乳の栄養成分が十分でないというデータもございますから、この部分はきちんとしていかなきゃならないのかなという感想を持ちました。</p> <p>まずは自分の足元から取り組んでいきたいと思っています。</p>
白川会長	次に、仙台市私立幼稚園連合会、木村委員お願いいたします
木村委員	<p>私立幼稚園連合会の研修委員をしております。各私立幼稚園さん、仙台市の私立幼稚園の園長先生・教頭先生とか、主任の先生が代表して来ていただいている団体でございます。</p> <p>私は宮城野区にあるみやぎ幼稚園の園長しておりますが、ほとんどの子供たちが朝ご飯は食べているのですが、決まった時間に来れない子やたまたま遅れてきた子に、朝ご飯食べた？という、食べてないって悲しそうな顔をする時があります。そういう時は、ドキッとしますが、お母さんにはすぐ聞けないんですが、少しずつお話を聞いて今日は食べた、また違う日に聞くと、うん食べたよ、と。何食べたのっていうとチョコレートパン食べた、チョコレートパンだけ？と聞くと、うん、という時もあるし、牛乳飲んだかな？果物も食べたって言うんですが、甘いパンを食べただけとか、そういうのが今のお母さんたちは、食べないより良いですが、多いかなと思います。</p> <p>そのお話と、やっぱり子供ですから全員がそうではないんですけど、よく運動する子遊ぶ子が食も進んでいるかな、全員ではないのですが。</p> <p>遊ぶときはあんなに活発なのに、トマトを食べる時に小さい口で食べたりする子もいるんですが、でも、大体はすごく元気に遊ぶ子は、パクパクご飯も給食も食べています。</p> <p>それからやはり今障害児が中におりますが、発達障害のある子たちは、これも全員ではないですが、偏食傾向にある子が多いかなと思いますね。</p> <p>ただ、もしかしてグレーゾーンかなと思う子でも、とにかく食べるのは一生懸命、この時間だけは静かなんですよって先生が言う子もいます。だから一概には言えないのですが。</p>

	<p>それで先生たちは何をしているかという、とにかく嫌いなものでも、少し食べてみようかって、今日はなめてみるだけとか、今日のはかじってみようとか、そういう小さな取り組みから、スモールステップで、そして、3年間2年間のうちには、給食が全部食べられるようになるようにしています。</p> <p>お弁当はどちらかというとお母さんは、好きなものを入れてくださっているの、お弁当が全部食べられるけど、週3回の給食が苦手っていう子が多いんですね。なので、栄養のバランスを考えて作ってくださっているということで、完食することを目標にして、幼稚園でもいろんな食育をしなくてはいけないと、もちろん取り組みはしておりますが、思った次第です。</p> <p>実は明日うちの幼稚園は始業式で、今日は準備出勤ということで全員集まって朝礼をしたのですが、昼に先生たちの食事をみて私は時々残念に思うんですね。給食やお弁当のときは、先生もちゃんと作ってきてお弁当を食べるんですけど、今日みたいに、預かり保育などでまだ子供は全員揃っていないとき、職員室で食べる時にお湯沸かしますねって、日直の先生が言ってるんですね。どうしてだかわかりますよね、何人かいるんですカップラーメンが。私、実は今年から就任したんですけど、まだ言えていないですけど、カップラーメン禁止ってしたいなって本当に思います。</p> <p>というのが私の今の感想で、先生たちの食育も頑張りたいと思います。以上です。</p>
白川会長	<p>ありがとうございました。すみません、名簿を一つ飛ばしてしましまして、戻りますが、宮城県生活協同組合連合会、加藤委員お願いします。</p>
加藤(房)委員	<p>資料3-2で、見て感じたのは、まず先ほど朝食を毎日食べる人とか、お話でありますが、やはり家庭環境とか親の食生活によって、影響が大きいのではないかと印象を持ちました。</p> <p>あと主食主菜副菜をそろえた食事を毎日食べるっていうことも、なかなか私でも難しいかなと思うのでこういったことを毎日というのはなかなか厳しい現状、経済状況社会状況からしても、毎日食べるという目標が、高く掲げるのは大事だと思うのですが、現状に即しているというのが感想です。</p> <p>あとはこの農園の数が減っているのはちょっと質問なのですが、こういった農業の生産者が、みやぎ生協、あいコープみやぎでもそうですが、高齢化後継者難でどんどん生産者が減っているのですが、農園の数の減少も、要因はそういった生産者の数の減少によるものかどうか、その要因がわかれば教えていただきたいなと思います。</p> <p>あと最後の、食品の安全性に関する講習会の受講者数ですが、これはやはりコロナの影響で、仙台市の事業の運営どうこうではないのですが、このコロナに対応してオンライン配信の出前講座に切り換えたりしたのかなというのが、対面式での講習会のみだと多分すべて中止にせざるをえないと思うので、この受講者数というよりも、仙台市で講習会を、中止したことによる数の減少なのかどうか、そのあたりの要因がわかれば、今後そういった改善策も生み出されると思います。</p> <p>あとは食品ロス削減について増加しているのはこの地球温暖化が気候危機レベルにまで達していることが仙台市民にも浸透してきていると思うので、やはり伝え続けることの大切さをここの増加を見て感じました。以上です。</p>
白川会長	<p>ありがとうございました。 ご質問について、回答お願いします。</p>

村上委員	<p>学童農園と市民農園の減少の原因ですけれども、コロナの影響がございまして、市民農園自体は逆にコロナの影響で人気が高くなっています。学童農園は子供たちが密になって活動する部分がございますので、そのところで年度当初には参加したいという形で手を挙げてくれる学校はありますが、途中でやっぱり今年度やめますというようなことがございまして、具体の数は持ち合わせておりませんが、コロナの影響だと捉えていただければと思います。</p>
加藤（邦）委員	<p>講習会の受講者数について、ご質問あったかと思いますが、これは加藤委員からのお話にもありました通り、講習会自体を取り上げたというものがまじっております。</p> <p>オンラインということにつきましては、講習会の内容にもよりますが課内でも検討していると聞いております。それから、全体の中でポストコロナとかウィズコロナとか言われている中で、こういったことをどう進めたらいいのかということについては、私どもとしましても考えていかなければならないと思っております。以上でございます。</p> <p>ありがとうございました。</p>
白川会長	<p>ありがとうございました。それでは、進めさせていただきます。</p> <p>市民公募の佐藤委員、お願いします。</p>
佐藤委員	<p>市民公募の佐藤と申します。</p> <p>簡単に略歴ですけれども、今産業医・医師として活動してまして、あと、中小企業診断士、経営コンサルタントとして健康経営 20 社以上の企業と提携させていただいております。それを踏まえてこちらの資料 3-2 に関して私からコメントとご質問させていただければと思います。</p> <p>朝食を食べる人の割合などに関して、速報値のまとめなどありがとうございます。現実として私も、実際に 20 代男性の働き始めた方、女性とか、そういった方の朝食を召し上がらないっていう率が結構多くて、朝食食べないから日中に生産性悪くて残業で残っていて夜あまり眠れなくて、朝起きられなくて朝食を食べられないというリズムで、負のサイクルをまわしている方がいらっしゃるんで、私はよくバナナ一本でも、と食育推進委員としてそれを朝食と言っていると、怒られちゃうかもしれないですがそのように伝えさせていただいております。</p> <p>それを踏まえて、直近で糖尿病内科の青木厚先生という、空腹こそ最強の薬という本を出された方の影響を感じておりまして、16 時間空腹にすると、オートファジーというようなもので体が良くなるってことで結構、従業員の方からご質問いただいております。だからご飯を食べないと、ご意見を頂戴しておりまして、それどうなんですかと聞かれることがあるんですけども、そういったこと、正しい情報誤った情報どちらもありますので、それを踏まえてアメリカの本当の研究だと、児童とか、高齢者糖尿の方には勧められないんですが、その本では勧められて、誤った情報なんですけれども、それを親がして、朝食をスキップして、だから子供にも食べさせないというような親がちょっと目立ってきていますので、来年以降、どういうふうな推移になるのか、このようなことも踏まえて、確認させていただきたいと思っております。</p> <p>あと、一番上の、2 つ目の 1 日 1 回は家族や仲間と食事をする人の割合、平成 28 年は、コロナ前だったので 60.9%で、今コロナ禍において、外食する方は減ったと思うんですけど実際にコロナの影響でどのくらいの数値だったのか、せっかくですので共有させていただければと思います。もしわかる範囲でしたら、</p>

	<p>後日でも大丈夫ですので、教えていただけましたら幸いです。</p> <p>また、今後、ポストコロナになったときに、どのくらい、市の目標値を割ってきてしまうか下がってきてしまうのかなどに関しても、確認させていただければと思っております。</p> <p>以上となります。</p>
白川会長	<p>ありがとうございました。16時間ダイエットについては、学生からもよく話が出るのですけれども、3食しっかり食べていても、必要な栄養素を取りきれないところがありますので、8時間で1日のすべての栄養素をとるというのはなかなか厳しい状況があります。栄養学の十分な知識を持って必要量を把握しているのであれば、できないこともないかもしれませんが、あまり知識がなくて行くと、やはり必要な栄養素が取れないのではないかとということで、おすすめしにくいところかと思えます。</p> <p>ただ肥満の方が短期的にダイエットするということであれば、バランスをしっかり考えて行えば、ある程度は意味があるかもしれませんが、一般的には、栄養バランスや栄養素の必要な量を満たすということでは、なかなか難しいのではないかと考えております。</p> <p>効果や健康への影響については諸説あり、皆さんのご意見もいろいろあるかと思えます。</p> <p>やはり長期的に栄養素が不足すると脳の方にも影響が出てきますので、認知症とかになりやすくなるという話はあるかと思えます。高齢になると食も細くなってきますので、低栄養にならないようにバランスよく食べる必要があるかと思われます。</p> <p>コロナの外出への影響についてはいろいろ統計がございまして、今、手元には資料がございませんが、かなり外出が減っていると思います。事務局でデータをお持ちでしたら、後日お示しいただければと思います。</p>
事務局	<p>2つ目の項目の、1日1回は家族や仲間と食事をする人の割合のデータですが、令和3年度の調査は平成28年度調査と同じ形で、調査をして比較をするというスタンスで実施しましたが、コロナ禍での調査期間ということもあり、家族とは食べると思うのですが、仲間との食事はお勧めしていないときに、同じ項目で聞くのはそぐわないのではないかとということで、今回の調査の中の項目には入れてないという状況です。</p> <p>以上でございます。</p>
佐藤委員	<p>ぜひなんですけれども、この点で、例えば、30代40代以上の方で、お子様がいる家庭、既婚者の方ですと確かに家族と召し上がる方が多いと思いますが、若い20代学生の方たちだと、多分、仲間と食事する機会は逆に減っていると思っております。そここのところの割合といいますか、年代ごとの推移とか、今後把握されるような機会がありましたら、ぜひ、共有させていただければと思います。</p> <p>僭越ながら失礼いたします。</p>
白川会長	<p>それでは、次に仙台市小学校長会、菅澤委員、お願いいたします。</p>
菅澤委員	<p>資料3-2の中の、小学校5年生の朝食を毎日食べる人の割合、そしてその下段にあります、児童生徒の肥満の部分について、所見を述べさせていただければと思います。</p> <p>昨日ちょうど本校の学校保健委員会があったのですが、当校のこういった傾向</p>

	<p>について、春にお医者様からもご意見を頂戴したところでした。</p> <p>朝食のことにしましては、やはりコロナ禍にあってテレワーク等の保護者の方も増えたのか、若干の時間に余裕があるようで、朝食を食べる方が増えてきている結果が見られました。</p> <p>ただこちらにつきましては、先ほど委員の方からご意見を頂戴しましたが、家庭環境に大きく左右されるのではないかなと思います。やはり家庭環境が厳しいご家庭にあっては、ここはなかなか難しいのかなと。逆に今そういったところで、お兄さんお姉さんが小さい兄弟のために食事を作ってあげるといった場面もあるんですが、そうすると今度は、今話題になっているヤングケアラーの問題に引っかかってくるということにもなります。あちらを立てればこちらが立たずというところもありますけれども、やはり食の大切さというのは伝えていきたいなと思うところです。</p> <p>あとやはり、片倉委員からお話がありました通り、仙台市教育委員会で学習習慣や生活習慣、そうしたものをリンクして集計した結果を、保護者向けの資料として配布されておりますが、この朝食の大切さっていうのは、以前から保護者の方にも伝わっていますので、そういった意味合いもあってこういったところについては、上昇傾向にあるかなというふうに感じているところです。</p> <p>児童生徒の肥満について、生徒については私の方でははっきり言えませんが、児童については、本校の場合は性差があります。やはり女子よりも男子の方に若干肥満傾向が見られるといったところが昨日ご指摘されました。</p> <p>そちらについては、どうしても今は男子の方が、家にこもる傾向といえますか、ゲームとかそういったものにどっぷりはまってしまっている子供たちがいるんじゃないかと。あと、やはり女子はどうしてもスタイルを気にしますので、そういったところでも、女子の方がそこは若干低いと。</p> <p>ですが、やはり8.3%から9.5%に肥満の割合が増えているというのは、やはりコロナに従った運動制限等を、今もう大きくかけているわけではないんですけども、やはり友達と一緒に楽しく遊ぶとか、そういったところについて、どうしても子供たちの中に見えない天井ではないんですけど、思いっきりまだ遊べていないといったところがあるのではないかと感じているところです。子供たちには遊んだ後ちゃんと手洗いをすればいいよと、そして、近くでは話さないでね、あと、運動している時、動いているのであれば、外だったらマスク外していいよっていうんですけども、どうしてもそこにはまだまだ見えないプレッシャー、圧を感じて、どうしてもマスクをしながら遊んでいる子供、そういったことが見受けられますが、この後少しでも好転すればなというふうに思っているところでございます。</p> <p>以上です。</p>
白川会長	<p>子供たちは夢中になって遊んでいると、つい集まってくっついてしまいますし、大学生もそうなのですが、ちょっと目を離すと密になってしまうので、やはり心配なところもあるというところでございます。</p> <p>次は、仙台歯科医師会の平田委員をお願いします。</p>
平田委員	<p>朝食っていうところですね。確かに本当にあるので、実際しっかり噛み応えのあるものをしっかり噛むことで、目が覚めますよね。そのあとしっかり活動できるっていうような部分もあるので、小学校だと結構食べていますが、20代、30代でカーンと落ちていて、改善傾向云々かんぬんよりも、そもそもいろんな状況を知らなければいけないのかな、これって、朝食を食べない理由とかは調べたり</p>

	<p>してるんですか。調べてはいないんですね。</p> <p>理由の部分がわかれば、改善策が出てくるのかなと思います。</p> <p>真ん中のあたり、主食主菜副菜そろえた食事をとということを見ると、私歯医者さんなので歯の話になりますが、歯がしっかりしてないと、いろんなもの食べられないと、結局、白いものっていうのかな。炭水化物メインの食事になってしまう。野菜だとかお肉だと、どうしても避けるような傾向にあるのかなって気がして、それがますますこういうことに拍車をかけているのかなと思うこともあります。</p> <p>あとは最近、学校健診とか幼児健診で思うのは、子供たちの歯並びが10年20年30年前と比べたら明らかにおかしくなっているなっていうのが、よくわかります。実際今、小児歯科でも明らかなデータとしても出ているところがあって、何が原因なのか難しいところなんですけど、しっかり歯ごたえのあるものをしてしっかり子供の頃から、食べさせていくっていうことが大切なのかなっていう感じはありますね。結局はお年を召されてからどんどん食が細くなって行って、食べられない状況になって、いつかは落ちていくんだけれども、その落ち始めるレベルをどれだけ上げてくかっていうのは大事なんですよね。低いレベルから落ちていくととんでもない、あっという間にもう食が摂れない。だから、その部分を、さらに前にあげておかなければいけないわけけれども、その部分ってのはやはり、幼児だったり児童だったりに関わって、虫歯のない健康の口の中を作るのとあわせて、やはりそういう子供のころからしっかりしたものを食べる、ということに気を付けていかなければいけないと思います。</p> <p>だから、おそらく主菜副菜とかその辺りで、どういったものを食べているのかという部分も知りたいところではありますし、地産地消だったりとか、あと伝統的な食事をいかにとっていくのかという部分につながっていくのかなと思います。いろいろどういう風にやっていたらいいのかなと考えたりすると、やはり皆様と連携していかなければと感じたところです。ありがとうございました。</p>
白川会長	<p>子供の朝食欠食につきましては、夜遅くまで起きているような生活習慣の乱れがある子供は、朝起きられないので時間がないとか食欲がないということで食べないことが多いと言われてます。</p> <p>大学生になると、朝ごはんを食べるよりも、もう少し寝ていたいという気持ちが強くなって欠食する、また、食べる習慣がない学生が、急に食べると気持ちが悪くなるというような意見もあります。</p> <p>歯並びについては、最近、やはりおやつなどは、やわらかいもの好む傾向があり、保護者の方が少しかために調理するとか食材を大きく切るといった工夫をしていないと、顎の発育が不十分で歯並びが悪くなってしまいます。あまり噛まない子供が増えていると言われておりますので、保護者の食生活の工夫というのは大切であると思っております。</p> <p>それでは次に、市民公募の古林委員にお願いいたします。</p>
古林委員	<p>古林と申します。</p> <p>私は、まず自分のことなのですが、障害を持った子供たち、小学校から高校生までですが、放課後利用する放課後デイサービスというところで、児童指導員、あとは管理栄養士として、勤務をさせていただいております。</p> <p>今回この結果を見させていただいて、まず食育に関する計画というのが、本当にきめ細やかに作成されて、実施されているということにすごく驚いて、食に携わる者として自分の無知というか、情報を知り得る力不足をちょっと痛感したところでもあります。</p>

	<p>自分自身が生まれ育った仙台は本当に海や山に囲まれて、いろんな食べ物、作物を栽培するのにすごく適したところで、恵まれているということにすごく、自分自身、誇りを持っているところでもありますし、それが地産地消に近いという仙台のよさを、資料を読ませていただいて、地産地消がすぐできる土地なんだということがすごくまた新たに誇りに思いました。</p> <p>結果を見させていただいて、食育という言葉が、もう当たり前にかれる世の中ですけれども、食に関する情報がものすごくたくさんあって身近に手に入るところなので、ただ、食育に関心がある人が減っているというのは結果として残念だなという風に思いました。</p> <p>ただこれは、コロナのこと、経済的にも厳しい状況であるとか、食べることでいっぱい、食育まで考える余裕はない状況なのかなあと考えました。</p> <p>あと、栄養バランスに気をつけている人の割合が減ってはいるが、90%超えているというところは、栄養士として安心というか、まだ良かったなっていうような感想はありました。それに繋がる主食主菜副菜をそろえた食事を、食べる割合がかなり少ないところにちょっと驚きました。バランスを実践するっていうことを、ハードルをいかに下げるか、難しいと思っていらっしゃる方が結構多いのかなと感じていて、具体的に簡単にバランスをとれる方法をいかに伝えられるかというところが、キーポイントなのかなと思います。</p> <p>実際職場で、夏休み期間中、子供たちが、保護者の方からお金を預かって、お弁当を買うようにお願いしますという方もたくさんいらっちゃって、一緒にスーパーとかコンビニとか買い物をするんですけども、子供たちは自分が食べたい好きな麺だけを選ぶ、ほうれん草のお野菜も一緒に買わない？と声をかけるんですけど、合わせてみると、お金が足りないとか、そういう状況だったり、お肉が好きな子供なので、と、お野菜が全くない、お肉だけがのっている肉丼を持ってきて、量を調整しなければいけないお子さんもいたり、購入する時にどう選ぶか、できればバランスを整えるのに、その一品だけでバランスが取れるものが増えていったらすごくいいなと思いました。今、この結果からも、子供たちの肥満があるとか、朝食を食べる人の割合が減っているとか、やはり保護者の皆さんの状況がかなり影響していると思っています。</p> <p>保護者の方がとにかくお忙しい、本音は作ること自体が面倒っていう方が増えている現状もあると思いますので、簡単にバランスがとれる、買って来たものでも、どうやって選べばでき合いのものでもバランスがとれるか、そういうところをもう少し、うまく現場、スーパーとかで見ることができればと思いました。</p> <p>あとロゴなんですけど、献立表を楽しみにしている子供たちも多いので、この献立表にロゴが入っているというのはすごくいいなと思いました。これも子供たちから親に発信できると思うので、ロゴはぜひ、いろんなところで広めていけたらいいなと思いました。</p> <p>ありがとうございました。</p>
白川会長	次に仙台市医師会大和委員、お願いします。
大和委員	<p>私自身、学校保健の方も担当しております、例えば学校健診の尿検査で引っかかってきた生徒さんの判定会議とかにも立ち会っているのですが、やはり本物の糖尿病になってしまっていたり、あと尿蛋白が出始めている。そしてデータを見ると血圧が上がっていて肥満もあるというようなお子さんもいるというのが今の現実かと思えます。</p> <p>個人ごとに毎年身長体重から成長曲線を作りまして、そこで病的な児童はもちろん精査に回すのですが、その中で異常となるのが肥満が大多数ということが現状でございまして、実際児童の肥満が若干8.3%から9.5%まで上昇してい</p>

	<p>るということだと思います。</p> <p>実際肥満はもちろん生活環境とかもございりますが、最近では腸内細菌の影響といったところでもですね、データとして出されてる先生もいらっしゃるのですが、ただ家庭環境にかなり大きく影響されます。学校でも指導が行われていると思うんですけど、他県の先生のお話を伺ったところ、毎年、指導に呼ぶと、肥満だ肥満だと言われることがストレスになると、肥満も個性、というそういう時代になってきて、なかなか頻回に指導できないといった意見を聞いて非常に驚いたところでした。</p> <p>ただ実際、小さいころから肥満で例えば頸動脈エコーなんかをやりますと、すでに動脈硬化が進んでるといった小児がいるといったところで、もちろんメンタルのフォローも必要かと思うんですけど、やはり食育に対する教育も非常に大事なのかなと思っております。</p> <p>以上です。</p>
白川会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>皆様から様々なご意見をいただきました。今後進められます計画の最終評価におきまして、本日皆様からいただきましたご意見を踏まえて、まとめていただければと思います。</p> <p>それでは、次の議事に移ります。</p> <p>(5) ですが、令和3年3月に公表されている国の第4次食育推進基本計画につきまして、情報共有を図りたいと思います。</p> <p>次の議事で、仙台市の食育推進計画策定に向けたスケジュールが示されますが、国の計画の視点についても、次期の市の計画にも盛り込んでいくことになりうかと思っておりますので、本日私の方からご説明させていただきます。</p> <p>資料4-2をご覧ください。1ページ目の第4次食育推進基本計画の概要ですが、まず1ページ目の左下に改善が望まれる食をめぐる現状課題が掲載されております。生活習慣病の予防をはじめ、ライフステージに応じた食と健康の問題や、食料自給率、温暖化、食品ロス、伝統的な食文化の継承などこれまでと同様に挙げられておきまして、その下に新たに追加されたものとして、今年で3年目となる新型コロナ感染拡大に伴う、新たな日常への対応や、コロナ禍でリモートワークなどを余儀なくされたことにより、急激に進んだ社会のデジタル化、持続可能な開発目標 SDGs への積極的な関与などが挙げられています。</p> <p>これらの現状を踏まえて、第4次食育推進基本計画では、紫色の枠の中に示した、国民の健康の視点として、「生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進」、「持続可能な食を支える食育の推進」、さらに、「新たな日常やデジタル化に対応した食育の推進」が重点事項として挙げられております。</p> <p>これらについての具体的な内容につきましては、3ページ目をご覧ください。それぞれの重点事項に関連する取り組みについて記載されておりますので、お目通しいただきたいと思っております。</p> <p>左側の赤枠の国民の健康に関する重点事項は、これまでも行われてきた食育の流れの継続になりますが、補足しますと、スマートライフプロジェクトは、「健康寿命延ばそう」をスローガンに運動や野菜摂取の促進など、食生活改善、禁煙、健診の受診を促すなど、厚生労働省による国民運動です。</p> <p>その下の栄養ケアステーションは、管理栄養士や栄養士による地域密着型拠点で、在宅療養や、高齢者介護における栄養食事指導をはじめ、地域の様々なサービスを提供する民間主導の取り組みになります。</p> <p>また近年、子供の貧困も問題となっており、フードバンクや子供食堂などへの</p>

支援などが挙げられています。

右側の「持続可能な食を支える食育の推進」では、いくつかの施策が示されていますが、1つ目の食と環境の調和については、持続可能な食料、農林水産業の生産力向上を、AIなどを活用したスマート農業や、持続可能な流通、消費など、イノベーションで実現をする「緑の食料システム戦略」の施策が挙げられています。

また2つ目の、農林水産業を支える多様な主体との繋がり深化では、皆様の取り組みにもありましたように、食への関心と理解を深める農林漁業体験活動の促進や、施策として「緑まちひとしごと創生総合戦略」が挙げられていますが、これは、コロナ禍でのリモートワークを契機に、地方移住への関心が高まり、地域での仕事や人材支援、デジタル化や、脱炭素化の推進を図るものです。3つ目の「日本の伝統的な和食文化も保護・継承」については、地域の伝統的な郷土料理をつくり食べる人が減っているため、本当は作っていただきたいと思いますが、データベース化や、デジタルツールを活用することで、新たな形での保護継承が推進されています。離れた地域の食文化や郷土料理について、ビジュアルとして知ることができるので、学校の教育現場などで有効であると思われます。

一番下の「新たな日常やデジタル化に対応した食育の推進」については、コロナ禍での食育の取り組みで活用されている方も多いと思いますが、今後さらにICTなどを活用して、効果的な情報発信や、オンラインによる離れた地域の生産者様との交流や料理教室など、様々な取り組みが行われていくと思います。

また、若い世代に向けた食育は、デジタルツールの活用が有効です。一方で、私のようにデジタル対応が難しい世代の方への配慮や情報提供も必要となります。

続きまして、2ページ目の「第4次食育推進基本計画における食育の推進にあたっての目標」をご覧ください。

黄色で示してあります、新たに追加見直しされた目標を見ますと、5番目の「学校給食における地場産物を活用した取り組みを増やす」については、以前は国産地場産物と国産食材の金額ベースではない割合になっておりましたが、今回、取り組み回数と、金額ベースの割合に変わりました。

6番目の「栄養バランスに配慮した食生活を実践する国民を増やす」については、健康日本21に準ずる形で、食塩と野菜摂取の具体的な量、そして果物摂取量が100グラム未満のもの割合が追加されています。

また右側11番目の「産地や生産者を意識して」、12番目の「環境に配慮した農林水産物食品を選ぶ国民を増やす」として、その割合が目標値になっております。

14番目の「地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法などを継承し、伝えている国民を増やす」については、㉑は以前からの目標で、その目標値が50%以上から、今回55%以上に引き上げられており、㉒の「郷土料理や伝統料理を月1回以上食べている国民の割合」の目標値が追加されました。

その他の目標値につきましては、各自ご確認いただければと思います。

資料4-2の説明は以上となりますが、こちらの資料4-1の第二次食育推進基本計画の冊子も、後程各自お目通しいただきまして、参考にさせていただきたいと思っております。

以上、重点事項及び新たな視点を中心にご説明しましたが、これらの視点を踏まえた事業について、本来は、委員の皆様からご紹介いただきたいところですが、本日は時間の都合もありますので、仙台市の取り組みについてお話させていただきたいと思います。

まず、子供未来局長の小林委員お願いいたします。

<p>小林委員</p>	<p>今回の食育基本計画の中に、重点事項は1から3まで定められておりますけれども、そのことに関連しまして、また、委員の皆様から、後期計画の指標の達成状況についていただいたコメントとも関連させながら、説明をしたいと思えます。</p> <p>まず、この第4次の食育推進基本計画の重点事項の1としては、「生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進」でございますけれども、このスタートになります乳幼児の時期が食習慣の基礎が確立をする大変重要な時期と、私たちもとらえております。妊産婦も含めてですけれども、そういった方々の食事については、各区役所の保健福祉センター、それから総合支所も含めまして、栄養士ですとか、保健師などの専門職が、母子健康手帳の交付のときや離乳食教室のとき、幼児健診の機会をとらえまして、健康的な食生活について、先ほど皆さんに見ていただいたリーフレットなどを通して啓発をしたり、あとは個別の相談などに応じているというような状況です。</p> <p>それから、先ほどお話しがありました資料3-2 達成状況の中で、毎日朝食を食べる4歳児の割合のあたりもかなり気になっていると、お話しいただきましたが、やはりこの4歳児で、朝ご飯を毎日食べるっていう割合が下がっているというのは非常に気にしております。</p> <p>この調査は、ここに書いてありますとおり、幼児の家庭における食生活実態調査の結果ですが、ここにはあげてはおりませんが、同じ調査の中で、子供だけでご飯を食べる割合も増加をしているという気になる結果が出ています。家族とともに一緒にご飯を食べる共食というのは、生活の基本づくりになりますし、保育所の中でもですね、そういうふうな取り組みについては保護者の皆さんにいろいろお便りでお知らせしておりますので、そういったところで、子供と一緒に食べる大切さを伝えていきたいと思っております。</p> <p>重点事項の2としては、「持続可能な食を支える食育の推進」というところがございます。これに関しましては、保育所では、様々なところのスペースを使って野菜づくりをしています。その野菜づくり、世話を通して成長の様子を観察にして絵に描いたり、収穫をして実際にそれを給食で出してもらう。そういうふうなことで、子供たちに体験の場を作っています。あとは、和食文化の保護や継承、こういった観点では、ひなあられを食べるとか行事食を食べるとか、今ですと、ずんだを食べるとかですね。あとおくずかけとか、そういうふうな郷土料理を給食のメニューにいれて、子供たちが実際に食べておいしいと思ってもらう、ということが、食事そのものへの興味を深めたり、楽しさを実感できるというふうな取り組みになっているかなと感じております。</p> <p>それから重点事項の3として、「新たな日常やデジタル化に対応した食育の推進」とございますけれども、これについては離乳食教室を、コロナ禍の中でオンライン開催をしたり、あとはその各区の方で、製作をしました動画を、流すといったこともしております。せんだいTubeというものがありますけれども、そういったものに掲載したり、各区でいろいろ工夫を凝らして、継続して啓発、それから個別の相談などに応じているというところなんです。</p> <p>それから保育所におきましても、子育て支援センターが併設しているところもあるのですが、そこでオンラインで食に関する相談を行っている他に、オンラインの離乳食講座の開催というのもいたしまして、ICTを活用した取り組みというのは今後もっと積極的に検討していきたい、このように考えているところでございます。</p>
<p>白川会長</p>	<p>次に経済局長の村上委員、お願いいたします</p>

村上委員	<p>経済局では、地産地消を推進するとともに地元農産物の消費拡大を図ることを目的としておりまして、この重点事項で言うところの、「持続可能な食を支える食育の推進」という項目と、「新たな日常やデジタル化に対応した食育の推進」、この2つの項目を中心に、主な取り組みについてご紹介したいと思います。</p> <p>情報発信であるとか、イベント開催などを通じて展開した仙台産の農産物の魅力発信事業、とれたて仙台というものを実施しております。はがき大のカードがございますけれども、2次元コードを貼ってありますので、苦手だと言わずにぜひチャレンジしてみてくださいと思います。なかなかこの中身を言葉で説明はしづらいので、実際見ていただくのが一番かと思っております。昨年からはじめておるものになりますが、ホームページとInstagramを開設しております。ホームページでは生産者に対するインタビューでありますとか、レシピの紹介、あるいは直売所の情報であるとか、こういったものを中心に情報発信してございまして、地元農産地に関する情報満載というふうに考えております。</p> <p>Instagramにつきましては、生産者の取材でありますとか直売イベント、旬の農産物の情報とか、いわゆるInstagramの特徴である、見栄えといたしますか、その映像画像を中心とした投稿を行っております。なかなか、フォロワーが伸びていないっていうのがちょっと悲しいところでして、今年の夏ぐらいからはじめたのですけれどもまだ1000に達していない、ぜひフォロワーになっていただいて、どんどん拡散していただければなというふうに思います。</p> <p>今年度はこうした情報発信に加えまして、実際に仙台産農産物を味わえる企画といたしまして、とれたて仙台フェアというものを企画しております、一番町からちょっと大町のほうに入った「CROSS B PLUS」という施設があるのですけれども、「CROSS B PLUS」を会場といたしまして、仙台産農産物を使用したメニューの提供、これを8月と10月に各4日間行うことにしております、8月分は先日終わりましたので、今回は10月下旬、ぜひこれもInstagramであるとかホームページの方に情報発信いたしますので、ぜひご覧いただければと思います。</p> <p>特に10月につきましては、地産地消月間と位置付けまして、生産者が開催するフェアでありますとか、地産地消講座に加えまして、関係機関と連携したイベント、これらも実施したいと思って考えておりますので、ぜひ地産地消を盛り上げる取り組みもしていきたいというふうに考えております。</p> <p>こうした企画の情報に関しまして、Instagramとホームページで発信していきたいと思っておりますので、ぜひご覧いただければと思います。</p> <p>以上です。</p>
白川会長	<p>ありがとうございます。大変美味しそうなのでぜひ見させていただきたいと思っております。ありがとうございました。</p> <p>次に教育長の福田委員をお願いします。</p>
福田委員	<p>私からは3点お話をさせていただきます。</p> <p>1点目が、このコロナ禍の影響というところですが、1つに児童生徒の肥満、これがどうしても数字として出てきてしまっています。コロナ禍前は大体8%台できていたのですが、令和2年度、休校になっていた期間がありましたけれども、この年は10%台と上がっています。令和3年度またちょっとさがって回復傾向にありますが、まだ9%台というところです。</p> <p>それからもう1つは学校給食なのですが、みんなと一緒に食べてはいるのですが、みんな同じ方向を向いて黙って食べているというのがまだ続いています。会話をしながら食事を楽しむという、共食の楽しさというのはなかなか体験できな</p>

	<p>い状況にありまして、これが食べることについての興味関心が薄くなってしまわないかという懸念を持っているところです。</p> <p>児童生徒の健康課題に対応する点ということでは、「仙台市すこやかな体の育成プラン」というのを、教育の方で持っておりまして、このコロナ禍において「集中対応プラン」というものを立てております。</p> <p>この中で1日の運動時間を10分でも増やしましょうですか、食に関する知識興味を持たせるような啓発あるいは指導、こういったものを行っていきましようといったようなことで取り組みを進めているところでございます。これが1点。</p> <p>それから2点目は、地場産物の給食での活用というところです。毎年6月を仙台っ子給食月間というふうに定めておりまして、仙台市産あるいは宮城県産の食品を献立に積極的に取り入れることにしているところです。併せてその郷土料理なんかも取り入れてございます。おかずもそうなのですが、先ほど献立表がありましたけども、吹き出しがいくつかあったと思いますが、仙台産の大豆を使っていますとか、蔵王産の卵を使っていますとか、これは石巻名物の石巻焼きそばですよ、とちょっとコメントをいれながら献立表を作っているというところです。また主食についても米飯については令和2年度から環境保全米の提供を始めておりますし、パンに使う小麦粉もそうなのですがこれも宮城県産のものを使っていると。だんだんではありますけど地場産品を使うように、というところで取り組んでいるところでございます。</p> <p>それから3点目が、デジタル化の食育というような話もありました。GIGAスクール構想の関係で1人1台端末が配布されたということがありますので、食育指導の手引きについても、ICTを活用したものということで改訂を図っています。授業で、宮城県産の食材をタブレット端末でも調べて資料やデータをクラスみんなで共有ができるといったことがございます。児童生徒同士が教え合って、新たな、気づきですとか、学びにも繋がる。また授業や給食の時間で、学校の栄養士ですとか栄養教諭がそれぞれの教室に入って、食育の指導というの、そのICTなども使いながらやっていくという取り組みを進めているところです。</p>
白川会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>最後に、健康福祉局の加藤委員、お願いいたします。</p>
加藤（邦）委員	<p>それでは先ほど、会長さんからお話がございました3つの重点事項に合わせて、少しお話をさせていただければと思います。</p> <p>健康福祉局としての取り組みは、重点事項1の「生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進」というところに力点が置かれるものでございます。健康寿命の延伸というものを目指しまして、乳幼児期から高齢期までのライフステージに沿って、生活習慣病予防のための食生活であるとか、栄養バランスに配慮した食事をするというようなことの意識を高める働きかけを行っております。</p> <p>本日大分話題になりました、若い世代の食育ということにつきましては、先ほど子供未来局の小林委員からお話ありましたとおり乳幼児期は子供未来局が中心に取り組みを進めておられまして、我々の方では次の、といいますか若い世代の食育、ということについて、先ほどいろいろお話ありました通り、生活が自立していくにつれて、食習慣であるとか、健康ということの意識が薄れてきているのかなというところに力を入れてやっております。仙台には大学や専門学校多数ございますので、その学校との協働、それから学生さんたちとも実際に協働しながら、例えばニューズペーパーの配布にご協力いただいたり、あとは文化祭で取り上げていただいたりというようなこと、少しずつ広げながらやっているということがございます。</p> <p>それから、心身の健康を支えるということで私どもの業務として忘れてはなら</p>

	<p>ないものに、食品の安全性確保ということがございます。安全な食行動であるとか、安全な食品提供というのは食育の大前提というふうに考えておりますので、市民に向けた食品の安全性に関する情報の提供とか、食品を提供する事業者への助言指導ということを進めているところでございます。</p> <p>こういったことをやっていく中で、どうしても新たに日常やデジタル化に対応した食育の推進ということに絡んでくるものがございまして、Facebook とインスタグラムでだてきちというものを持っております。だてきちってなんだとよく言われるのですが、仙台伊達なキッチンというのを略して、だてきちと言っております。Facebook、インスタ活用されている方ぜひ見ていただければと思うのですが、そういうところで健康情報とか健康役立ちレシピなんていうのは、これも先ほどの学生さんの協力もあったりしながら、情報発信しているというところでございます。</p> <p>それから先ほど経済局、小さい資料とありましたけれどもっと小さいしおりというのを今日つけております。これは区役所で配布している子育て世代に向けたたリーフレットに挟み込んでいるものですが、これは焼肉バーベキューで安全にお肉を焼くコツというのもありまして、要は生肉食うなということなのですが、そういうことをデジタルを通じて周知をしているというようなものもございまして。</p> <p>それから私ども健康福祉局とまた違った視点でこの食育を支えていただいている環境局の取り組みをご紹介します。今度は大きい資料がございまして、ご存知ワケル君が載っている一般廃棄物処理計画と食品ロス削減パンフレットをお配りしてございます。環境局では重点事項2の「持続可能な食を支える食育の推進」の中の、食品ロス削減という取り組みを進めてございます。仙台市一般廃棄物処理基本計画概要版の3ページに、食品ロスの実態を取り上げてございまして、この後、5ページになりますが、基本方針の中では、食品ロス量の削減を重点事項として取り上げてございます。具体的な取り組みにつきましては市内市立の図書館での食品ロス関連図書の企画展示の実施であるとか、スーパーコンビニの店頭で啓発ポップをだしたり、そんなことを取り組んでおります。それから最近よく目につくものとして、これは「持続可能な食を支える食育の推進」と「生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進」に跨るものでございますけれども、フードバンクとフードドライブ、これを両輪としてやってございまして、ご家庭の未利用食品を集めてフードバンク団体へ提供するというところでフードドライブを実施しているというところがございまして。それから仙台食品ロスガイドブックを活用した講座をやっているほか、デジタル化としていたしましては、ウェブサイトもつたいないキッチンを開設しております。もつたいないキッチンで検索をいただきたいと思っております。そちらでは食品ロスを減らすアイデア満載のレシピであるとか、地産地消というお話がありましたけれども、県内産食材の産地生産者の紹介のようなことをやっております。</p> <p>この3つの取り組みってというのはそれぞれ連携しながら、みんな間を埋めながらやっているというのがございます。委員の立場というか仙台市の立場ということになります。関係局が連携をしながら、この目標に向かって取り組みを進めているという状況です。</p> <p>長くなりました。以上です。</p>
白川会長	<p>ありがとうございました これまでのご説明でご意見ご質問等ございますでしょうか。</p>
加藤（房）委員	<p>予算の関係があるので、一意見として聞いていただければと思います。消費生</p>

	<p>活センターで伊達学園っていうのがあって、消費生活の年代別に合わせてそれこそ児童生徒にタブレット配布により、大分その伊達学園もリニューアルして、アクセス数が増えたということを知っています。</p> <p>この食育についても、お金がかかるかと思うけど、そういった、児童生徒向けに、せっかくだからクイズ形式みたいな、先ほど片倉さんがおっしゃったような朝食を抜くと、こんなことになるみたいなのが、クイズでポッポッポってやると、古林委員言ったみたいに、それこそ簡単に、難しく考えなくても、何か日常的に、こういうことが大事なんだなっていう気づきみたいなものができるようなのを、伊達学園のような、ちょっと勝手に妄想しておりましたので、もし予算があるのであればご検討いただければなと思いました。</p>
白川会長	<p>貴重なご意見ありがとうございます。ほかにありますか。</p> <p>それでは、議事の4、委員の皆様から全体を通してのご意見でございますでしょうか、後ほどメールとかでご連絡いただいてもよろしいかと思っておりますので、何かありましたら、よろしくお願いたします。</p> <p>なければ、議事の6の次期仙台市食育推進基本計画について事務局よりご説明をお願いします</p>
事務局	<p>では資料の方、ご用意いただければと思います。</p> <p>資料の5の真ん中の表のところになります。国と県、仙台市の計画期間をまとめております。仙台市の現行の計画期間につきましては、1年延長として、令和5年度までとなっておりますが、先ほど会長よりご説明いただきました国の第4次食育推進基本計画及び宮城県の第四期宮城県食育推進プランにつきましては、令和3年度より開始されている状況となっております。次に、仙台市の次期計画策定までのスケジュールですが、今年度は現計画の最終評価を行い、来年度、次期計画策定の予定となっております。</p> <p>食育推進会議につきましては、今年度は今回を合わせて2回、来年度は年3回開催する予定でございます。</p> <p>今年度2回目の会議では、現計画の最終評価の報告と次期計画の方向性を共有させていただく予定です。来年度の会議では、次期計画の骨子案の確認、中間案の確認、最終案の検討等を行う予定でございます。</p> <p>どうぞよろしくお願いたします。</p>
白川会長	<p><その他></p> <p>ただいまのご説明についてご意見、ご質問等ございませんでしょうか。</p> <p>では、なければ、以上で議事を終了させていただきます。皆様から様々なご意見をいただき大変ありがとうございました。</p> <p>事務局に進行をお戻しいたします。</p>
進行	<p><閉会></p> <p>委員の皆様、長時間にわたるご議論ありがとうございました。なお、今年度第2回目の会議を1月末から2月上旬に開催させていただきたいと考えております。具体的な日程につきましては、今後会長と事務局とで調整させていただき、設定次第改めて委員の皆様にご案内申し上げたいと存じますので、引き続きよろしくお願いたします。</p> <p>以上をもちまして、令和4年度第1回仙台市食育推進会議を閉会いたします。ありがとうございました。</p>

	-了-
--	-----

令和 4年 月 日

署名委員 印